

**工事中の環境モニタリング調査結果の報告**  
**【令和4年夏季～令和5年春季】**

令和5年8月

沖縄県土木建築部八重山土木事務所

# 環境モニタリング調査結果【調査実施工程】

## 実施工程表

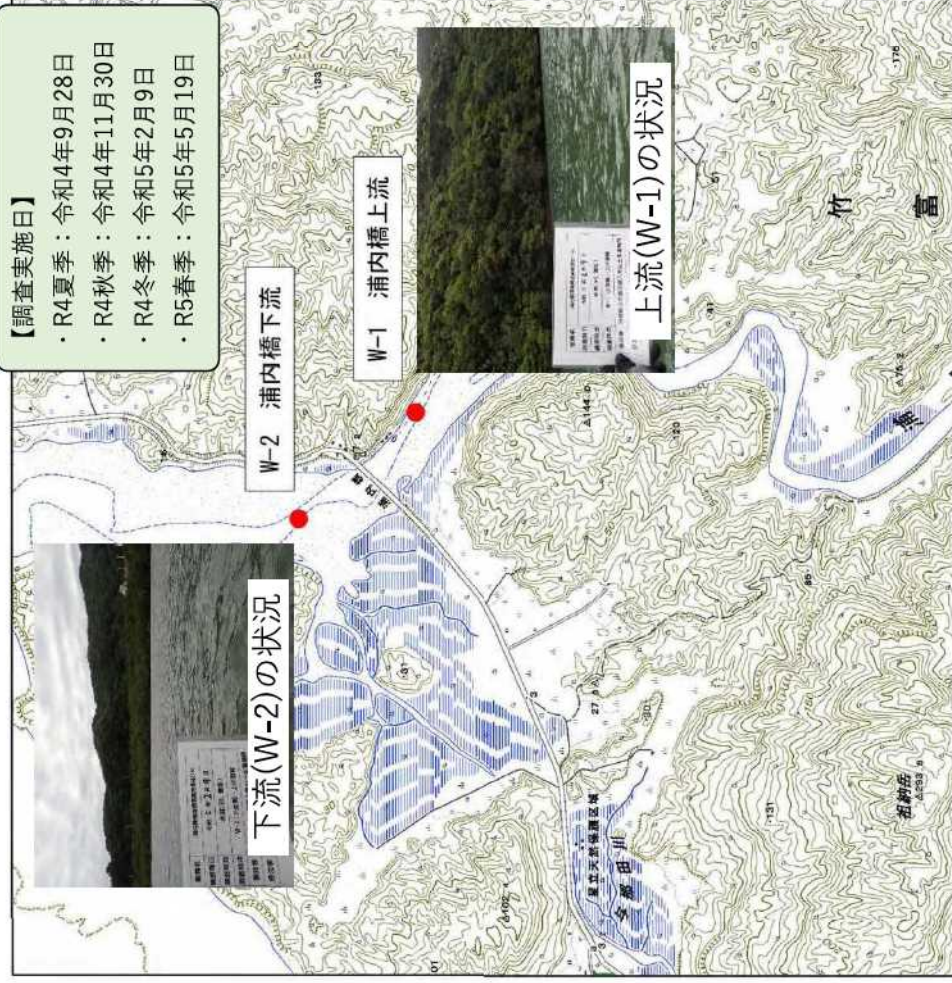
調査項目	令和4年							令和5年								
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月				
	R4年度夏季							R4年度冬季					R5年度春季			
水質			●		●			●					●			
陸上植物	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
陸上動物																
水生生物																
																※2

※1 浦内橋周辺植生状況調査（春季）は、星立天然保護区への立入許可申請手続きの遅延により、未実施。  
 ※2 浦内橋周辺環境調査（梅雨期後）は、梅雨明けが6/25(日)であったため、7月に実施。

# 環境モニタリング調査結果【水質】

## 【調査方法】

浦内橋の上流・下流の2地点において、上げ潮時、下げ潮時に表層水の採水を行った。採水した試料は、試験室に持ち帰って、右表に示す試験方法で室内分析を行った。



項目		試験方法
現場測定 項目	水深	水深計
	水温	アルコール温度計
	水色	フォーレル水色計
	臭気	上水試験方法
	透明度	透明度板
室内分析 項目	透視度	透視度計
	SS	環境庁告示第59号付表8
	濁度	JIS K 0101 9.4





# 環境モニタリング調査結果【水質】

- 令和4年度夏季～令和5年度春季におけるSS(浮遊物質質量)は2～14mg/L、濁度は1.1～4.0の範囲でそれぞれ推移しており、令和4年度秋季の上げ潮時に降雨による出水の影響でSS及び濁度ともやや高値となった。
- 水質汚濁に係る環境基準(河川A類型相当値：25mg/L以下)を満足する結果で、良好な水質環境が維持されている。

項目/地点	W-1(上流側)	W-2(下流側)	環境基準
上げ潮時	水深(m)	1.3	1.0
	気温(℃)	29	29
	水温(℃)	29	29
	水色	29	29
	臭気	無臭	無臭
	透明度(m)	>50	>50
室内分析項目	SS(mg/L)	2	25
	濁度(度)	1.7	1.8
下げ潮時	水深(m)	3.0	1.5
	気温(℃)	29	29
	水温(℃)	27	27
	水色	27	27
	臭気	無臭	無臭
	透明度(m)	>50	>50
室内分析項目	SS(mg/L)	1	2
	濁度(度)	1.1	1.4

項目/地点	W-1(上流側)	W-2(下流側)	環境基準
上げ潮時	水深(m)	1.3	0.9
	気温(℃)	21.0	21.0
	水温(℃)	23.0	23.0
	水色	緑色(15)	緑色(15)
	臭気	無臭	無臭
	透明度(m)	>50	>50
室内分析項目	SS(mg/L)	13	14
	濁度(度)	9	8.9
下げ潮時	水深(m)	2.5	0.9
	気温(℃)	21.0	21.0
	水温(℃)	23.5	22.5
	水色	緑色(13)	緑色(13)
	臭気	無臭	無臭
	透明度(m)	>50	>50
室内分析項目	SS(mg/L)	3	2
	濁度(度)	2.9	4.0

項目/地点	W-1(上流側)	W-2(下流側)	環境基準
上げ潮時	水深(m)	1.5	1.3
	気温(℃)	22.5	22.5
	水温(℃)	21.0	20.0
	水色	無臭	無臭
	臭気	無臭	無臭
	透明度(m)	>50	>50
室内分析項目	SS(mg/L)	4	3
	濁度(度)	1.0	0.9
下げ潮時	水深(m)	2.0	0.9
	気温(℃)	24.0	24
	水温(℃)	21.0	21.0
	水色	緑色(6)	緑色(5)
	臭気	無臭	無臭
	透明度(m)	>50	>50
室内分析項目	SS(mg/L)	2	3
	濁度(度)	1.2	1.3

項目/地点	W-1(上流側)	W-2(下流側)	環境基準
上げ潮時	水深(m)	1.1	0.8
	気温(℃)	25.0	25.0
	水温(℃)	24.0	24.0
	水色	黄緑(6)	黄緑(6)
	臭気	無臭	無臭
	透明度(m)	>50	>50
室内分析項目	SS(mg/L)	4	3
	濁度(度)	1.4	1.5
下げ潮時	水深(m)	2.5	0.8
	気温(℃)	24.5	24.5
	水温(℃)	19.0	19.0
	水色	黄緑(6)	黄緑(6)
	臭気	無臭	無臭
	透明度(m)	>50	>50
室内分析項目	SS(mg/L)	1	2
	濁度(度)	1.1	1.1

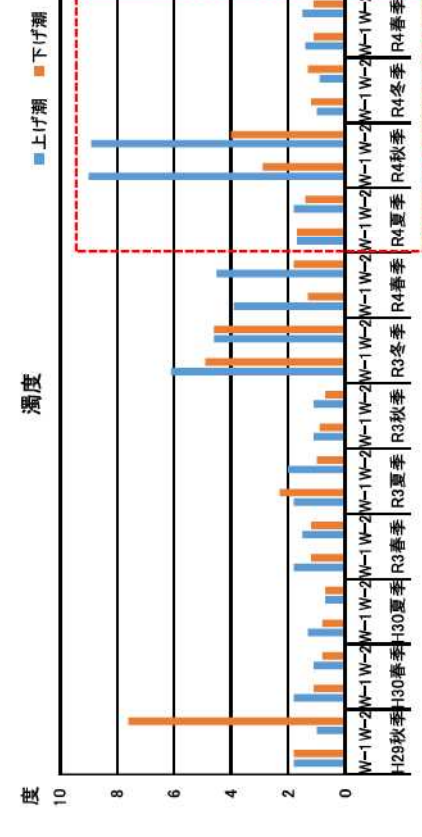
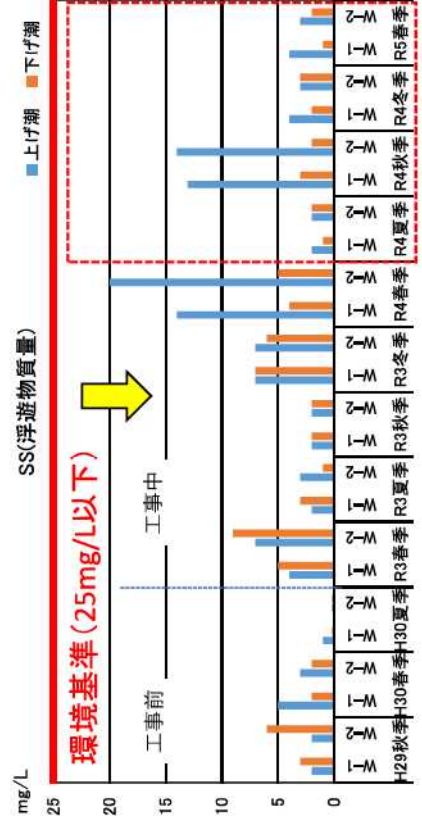
注)水質汚濁に係る環境基準(河川：A類型相当値)

注)水質汚濁に係る環境基準(河川：A類型相当値)

注)水質汚濁に係る環境基準(河川：A類型相当値)

注)水質汚濁に係る環境基準(河川：A類型相当値)

水質調査結果(令和4年度夏季) 水質調査結果(令和4年度秋季) 水質調査結果(令和4年度冬季) 水質調査結果(令和5年度春季)



赤枠：本調査期間

赤枠：本調査期間



# 環境モニタリング調査結果【陸上植物】

## 【移植後の生育状況調査】

移植した個体毎に植物高・葉数・開花・結実・枯損等の観察を行い、移植後の生育状況を把握した。

## 【浦内橋周辺植生状況調査】

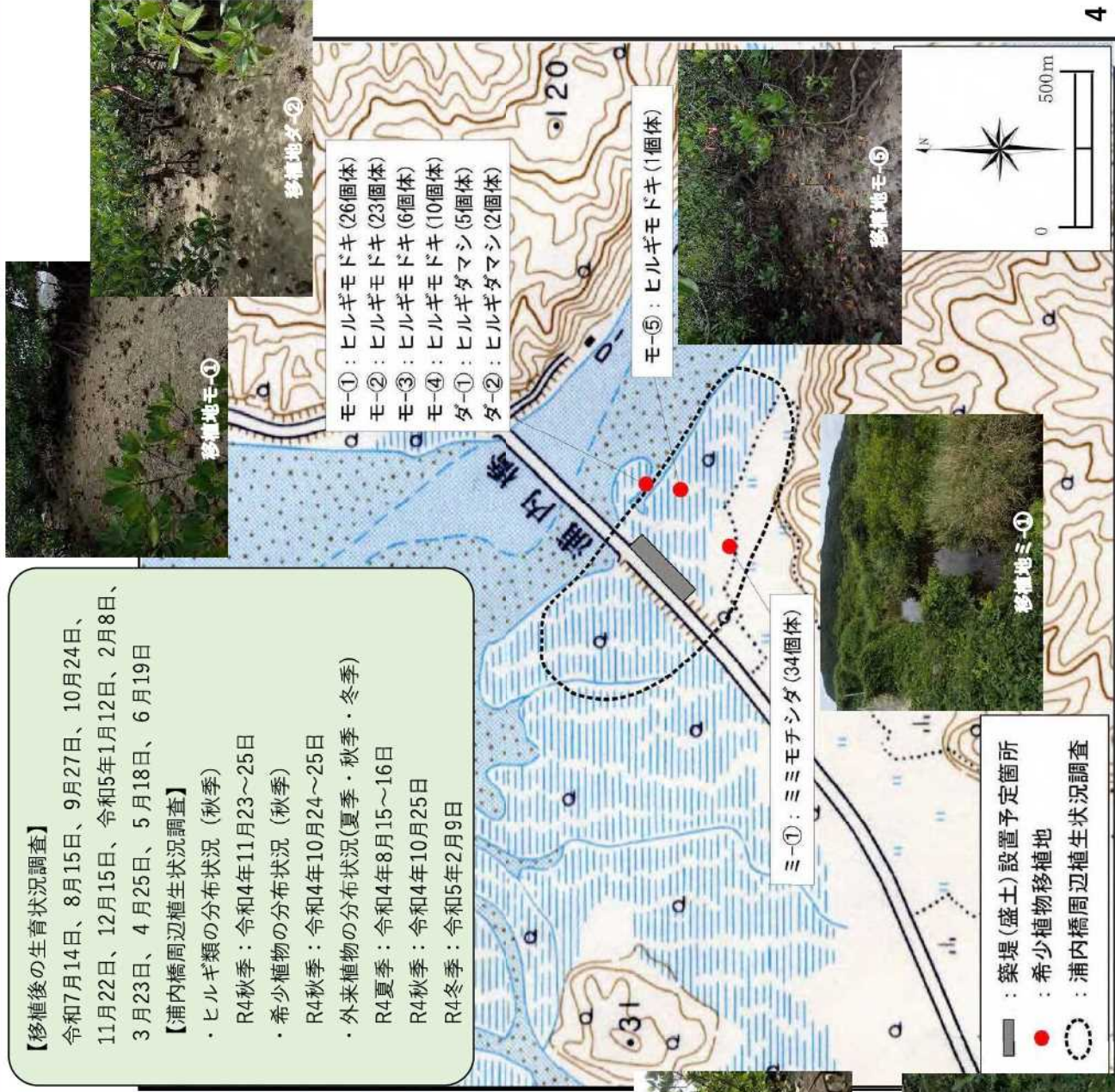
- ・ ヒルギ類の分布状況  
ヒルギ類の毎木調査を行い、ヒルギ類の生育状況、個体数等の増減を把握し、工事による生育状況の変化が生じていないかを確認した。
- ・ 希少植物の分布状況  
改変区域周辺に生育する希少植物の生育状況調査を行い、工事の実施による生育状況の変化が生じていないかを確認した。
- ・ 外来植物の分布状況  
特定外来生物及び緊急対策外来種を調査対象種(ツルヒヨドリ、アメリカカハマガルマの2種)として、それらの生育の有無を確認するとともに、浦内橋周辺における分布状況の把握を行った。

## 【移植後の生育状況調査】

令和7月14日、8月15日、9月27日、10月24日、11月22日、12月15日、令和5年1月12日、2月8日、3月23日、4月25日、5月18日、6月19日

## 【浦内橋周辺植生状況調査】

- ・ ヒルギ類の分布状況 (秋季)  
R4秋季：令和4年11月23～25日
- ・ 希少植物の分布状況 (秋季)  
R4秋季：令和4年10月24～25日
- ・ 外来植物の分布状況(夏季・秋季・冬季)  
R4夏季：令和4年8月15～16日  
R4秋季：令和4年10月25日  
R4冬季：令和5年2月9日





# 環境モニタリング調査結果【陸上植物】

## (1) 希少植物種の移植後の生育状況調査

### ① ミミモチシダ

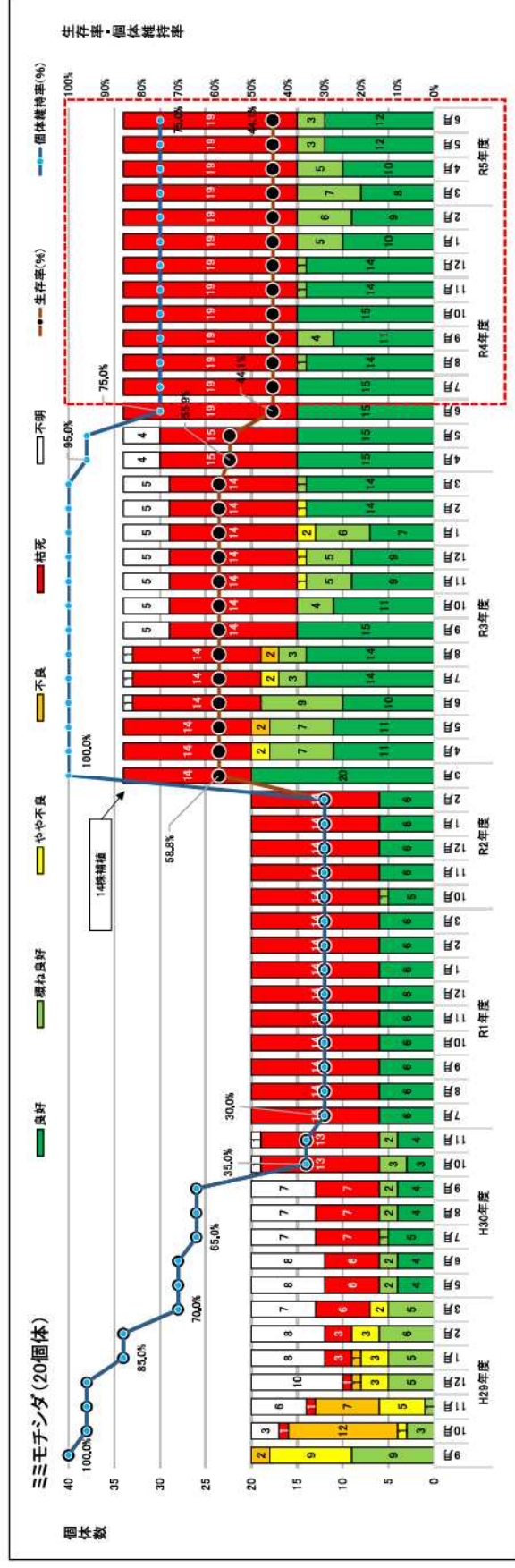
- 移植後の生存率は44.1%であり、移植対象個体数(20個体)に対する生育個体数の個体維持率は75.0%であった。
- 胞子が確認されたほか、株分け個体も確認され、安定状態にあると考えられる。



ミミモチシダ 新芽(R4.9月撮影)



ミミモチシダ 胞子(R4.10月撮影)



生存率(%)：移植個体の生存割合 (生育個体数/移植個体数×100)  
 個体維持率(%)：移植対象個体の維持割合 (生育個体数/移植対象個体数×100)

赤枠：本調査期間



# 環境モニタリング調査結果【陸上植物】

## (1) 希少植物種の移植後の生育状況調査

### ② ヒルギモドキ

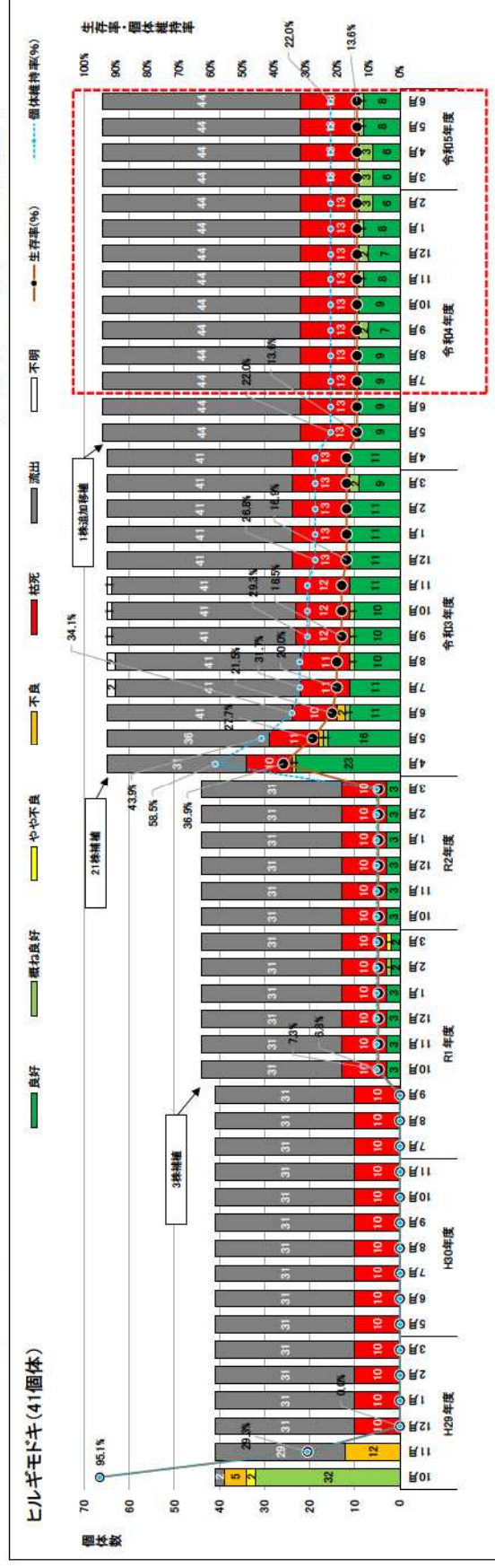
- 移植後の生存率は13.6%であり、移植対象個体数(41個体)に対する生育個体数の個体維持率は21.4%であった。
- 潮汐等による流出個体が確認されているものの、活着個体については、1個体で開花が確認されるなど、概ね良好な生育が確認された。
- 新たに追加した移植地モ-⑤において、流出は確認されていない。



ヒルギモドキ開花(R4.6月撮影) ヒルギモドキ新芽(R4.9月撮影)



移植地モ-⑤(R4.9月撮影)



生存率(%)：移植個体の生存割合 (生育個体数/移植個体数 × 100)  
 個体維持率(%)：移植対象個体数の維持割合 (生育個体数/移植対象個体数 × 100)

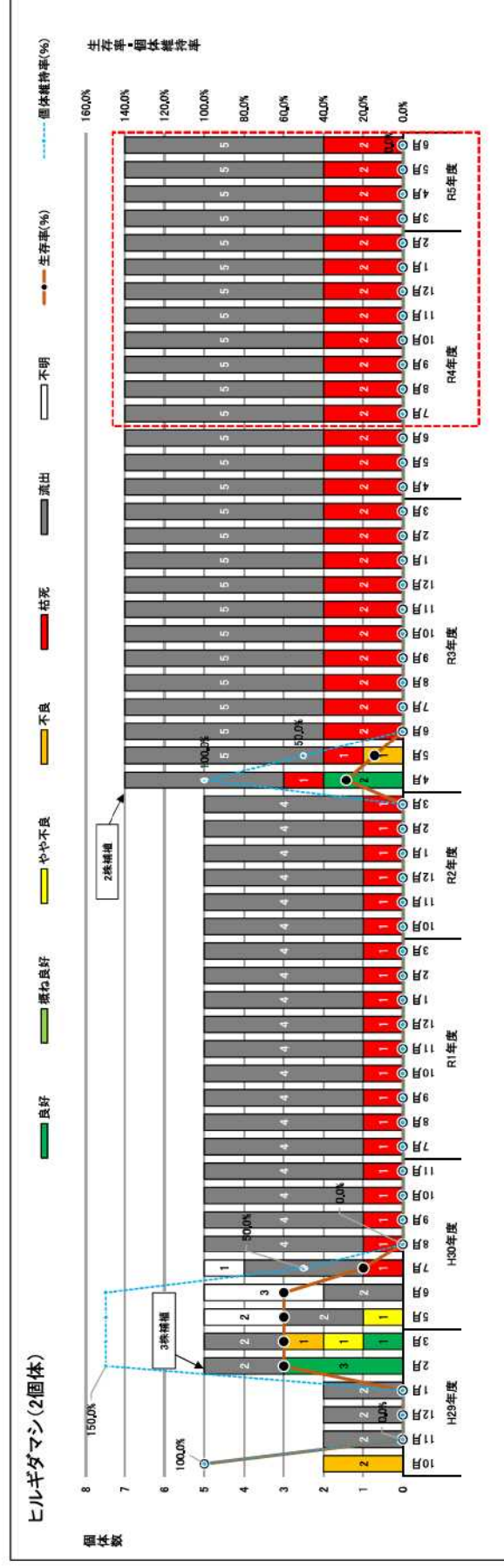
赤枠：本調査期間

# 環境モニタリング調査結果【陸上植物】

## (1) 希少植物種の移植後の生育状況調査

### ③ ヒルギダマシ

- 移植後の生存率は0%であり、移植対象個体数(2個体)に対する生育個体数の個体維持率も0%であった。
- 移植した全個体が潮汐等により流出した。今後は、流出しにくい新たな移植地を検討するほか、植付方法を検討し、追加移植を行う。



生存率(%)：移植個体の生存割合 (生育個体数/移植個体数 × 100)  
 個体維持率(%)：移植対象個体の維持割合 (生育個体数/移植対象個体数 × 100)

赤枠：本調査期間



# 環境モニタリング調査結果【陸上植物】

## (2) 浦内橋周辺植生状況調査

### ① ヒルギ類の分布状況調査

- 浦内橋周辺に設定した8箇所(QR5～QR12)において、ヒルギ類の毎木調査を実施した。
- 調査地点設定にあたっては、工事による影響が考えられる下流側の6箇所(QR7～QR12)を設定したほか、対照地点として上流側に2箇所(QR5～QR6)を設定している。
- なお、QR10～QR12の3箇所は事業実施箇所から離れた箇所の変化を把握するため、令和4年度春季に追加した。



QR5



QR6



QR7



QR8



QR9



QR10



QR11



QR12





# 環境モニタリング調査結果【陸上植物】

## (2) 浦内橋周辺植生状況調査

### ① ヒルギ類の分布状況調査（個体数）

- 現地調査で確認したヒルギ類はメヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシの4種986個体で、その内訳は、ヤエヤマヒルギが910個体と最も多く、オヒルギ71個体、メヒルギ4個体、ヒルギダマシ1個体であった。
- 上流側、下流側で個体数の増減の傾向に顕著な差異は確認されなかった。
- 樹種別では、メヒルギは減少傾向のち、安定して推移、オヒルギは増減を繰り返しながら増加、ヤエヤマヒルギは大きく増加しており、樹種によって増減の傾向に僅かな違いがみられた。その要因として、樹種による僅かな生育環境の違いや種子供給量の違いが考えられた。



メヒルギ

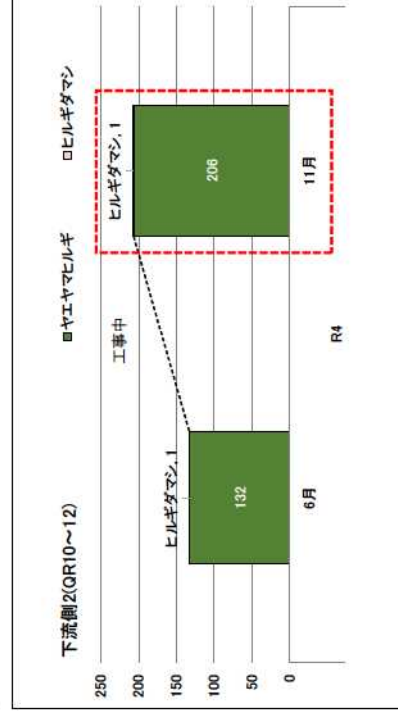
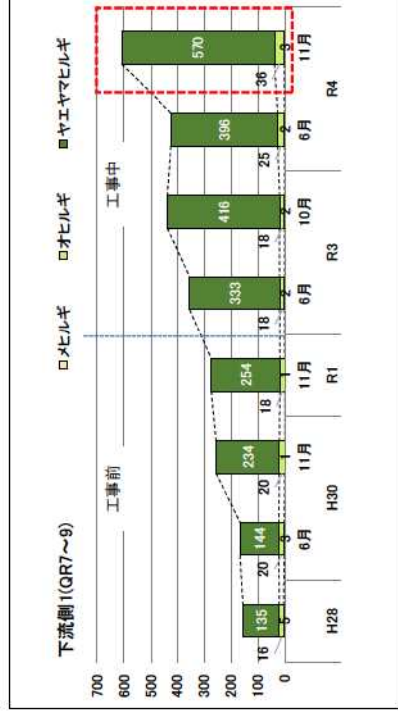
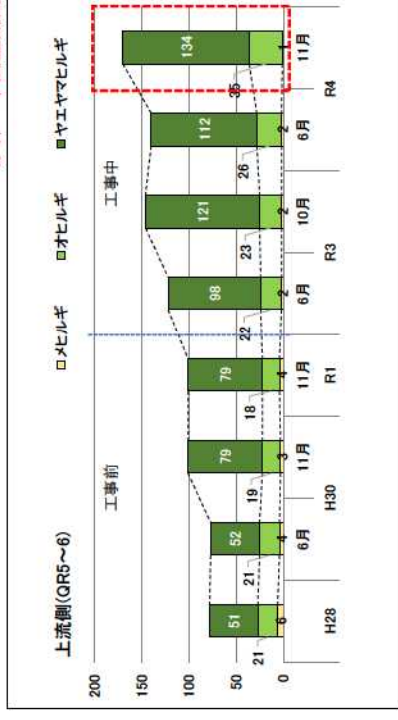


オヒルギ



ヤエヤマヒルギ

赤枠：本調査期間



調査結果の概要1（個体数）

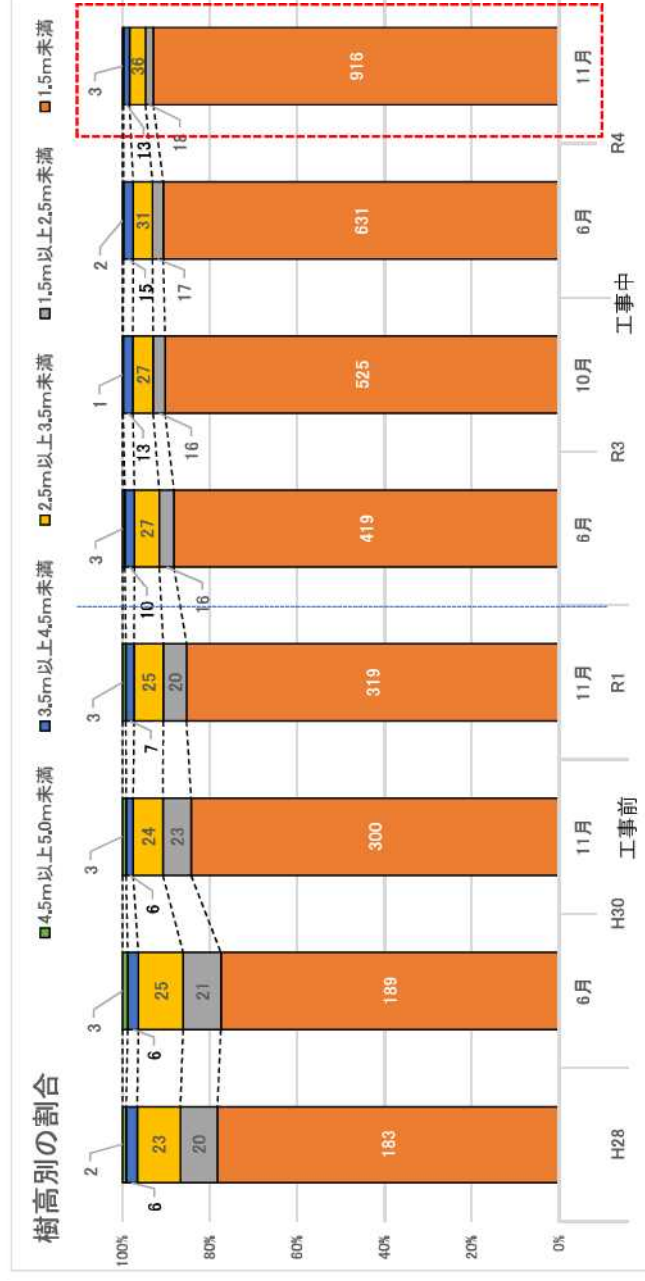


# 環境モニタリング調査結果【陸上植物】

## (2) 浦内橋周辺植生状況調査

### ① ヒルギ類の分布状況調査（樹高別）

- 樹高別では、1.5m未満の若い個体が916個体と全体の約93%を占め、5.0m以上の個体は確認されなかった。全樹種とも1.5m未満の個体が多く、メヒルギにおいて、1.5m以上の個体は確認できなかった。
- 工事前(平成28年度、平成30年度、令和元年度)と比べると、全地点とも個体数増加の傾向にあるが、ほとんどが樹高1.5m未満の若い個体であり、全個体数に占める樹高1.5m未満の割合が大きく増加している。



調査結果の概要2（樹高別）

赤枠：本調査期間

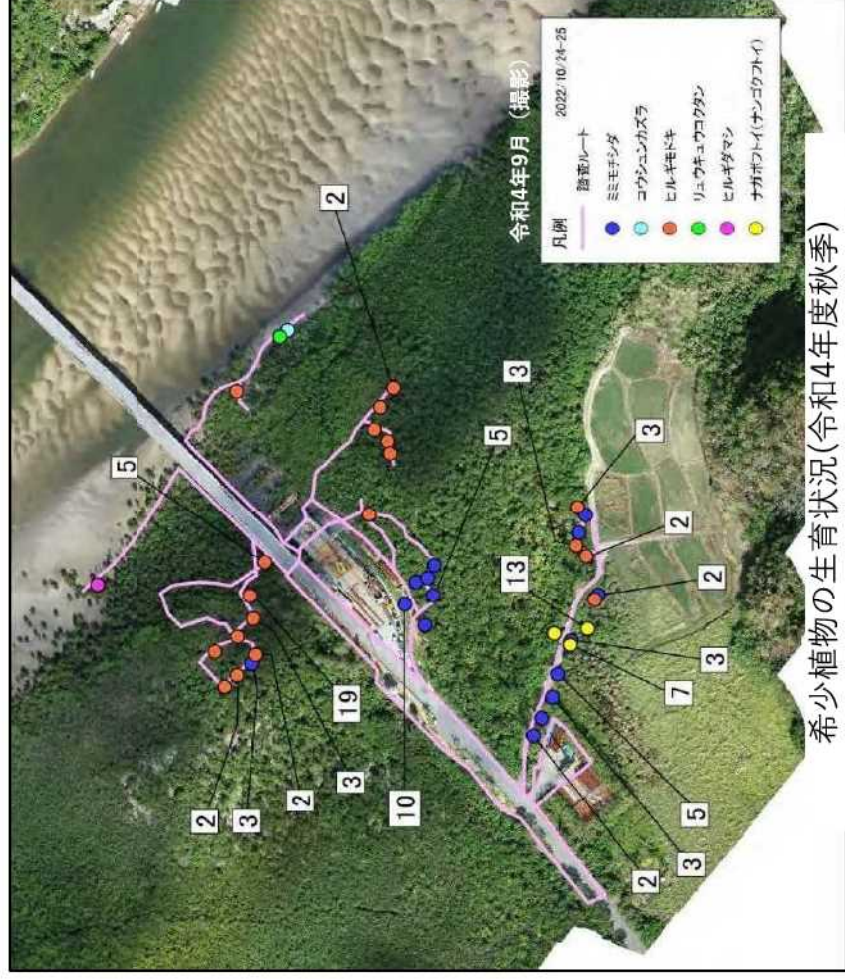


# 環境モニタリング調査結果【陸上植物】

## (2) 浦内橋周辺植生状況調査

### ②希少植物の生育状況の把握

- 確認した希少な種は、ミミモチシダ、コウシュンカズラ、ヒルギモドキ、リュウキウコクタン、ヒルギダマシ、ナガボフトイの6種で、工事前と同様な生育状況が確認された。



希少植物の生育状況(令和4年度秋季)



ミミモチシダ



コウシュンカズラ



ヒルギモドキ



リュウキウコクタン



ヒルギダマシ



ナガボフトイ



# 環境モニタリング調査結果【陸上植物】

## (2) 浦内橋周辺植生状況調査

### ③ 外来植物の分布状況の把握

- ・ 確認した外来植物は、アメリカハマグルマの1種で、特定外来生物のツルヒヨドリは確認されなかった。
- ・ 確認地点は、工事前と同様、農道脇の路傍で小規模な群落や帯状に分布していたほか、資機材搬入箇所(資材置き場)を取り囲むように分布していた。
- ・ マングローブ林内及び迂回路設置箇所において、アメリカハマグルマは確認されなかった。



確認されたアメリカハマグルマ  
(令和4年秋季調査時)



外来植物の分布状況(令和4年度夏季)



外来植物の分布状況(令和4年度秋季)



外来植物の分布状況(令和4年度冬季)



# 環境モニタリング調査結果【陸上動物】

## 【鳥類繁殖・生息状況調査】

カラムリワシの探餌、採餌、飛翔経路といった行動様式を記録し、特に、繁殖行動に留意して調査を行った。併せて、キンバトヤリウキウキツミ等重要な鳥類の記録を行った。調査地点は、工事現場周辺での定点調査のほか、浦内橋の両岸では任意踏査（行動調査）を行った。観察には8～10倍の双眼鏡、20倍の地上望遠鏡を用い、可能な限りデジタルカメラによる撮影を行った。調査時間は、カラムリワシの行動が活発化する日の出からの4時間及び日没前の4時間程度とした。また、定量的なデータの蓄積を目的に、カラムリワシのロードセンス、鳥類ルートセンス、鳥類ルートセンス・定点調査を行った。

## 【イリオモテヤマネコの生息状況調査】

浦内橋左岸側2箇所(3台)、右岸側1箇所(1台)に設置した自動撮影カメラの連続撮影により、浦内橋周辺におけるイリオモテヤマネコの生息状況を把握した。

## 【ロードキル調査】

工事中に資機材運搬ルートの利用が想定される県道215号線の仲間(大原)港～白浜港間を、日中及び夜間に車両で低速走行し、確認したイリオモテヤマネコを含む希少動物等のロードキルの状況を記録した。

## 【外来生物調査(侵入状況及び駆除)】

対象地域を日中及び夜間に踏査し、西表島外からの侵入の可能性が高い特定外来生物4種(両生類のオオヒキガエルとシロアゴガエル、クモ類のハイイロゴケグモとセアカゴケグモ)の工事区域周辺等における生息状況の把握を行った。確認した対象種は、可能な限り捕獲し、適切に駆除を行った。

## 【鳥類繁殖・生息状況調査】

R4巢外育雛・家族期：令和4年9月19日～22日  
 R5繁殖期(つがい形成期)：令和5年3月14日～17日  
 R5繁殖期(抱卵期)：令和5年4月18日～21日、5月23日～26日

R5繁殖期(巣内育雛期)：令和5年6月27日～30日

## 【イリオモテヤマネコの生息状況調査】

・自動撮影カメラによる連続撮影(データ回収等)

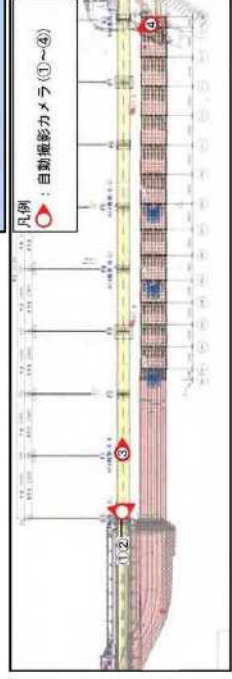
令和4年7月15日～16日、8月15日～16日、9月21日、10月25日、11月24日、12月16日、令和5年1月19日、2月9日、3月17日、4月20日、5月18日、6月19日

## 【ロードキル調査】

R4夏季：令和4年7月26日～28日  
 R4秋季：令和4年10月25日～27日  
 R4冬季：令和5年1月17日～19日  
 R5春季：令和5年5月17日～20日

## 【外来生物調査(侵入状況及び駆除)】

R4夏季：令和4年7月26日～27日  
 R4秋季：令和4年10月25日～26日  
 R4冬季：令和5年1月17日～19日  
 R5春季：令和5年5月17日～20日



自動撮影カメラ設置状況



イリオモテヤマネコの生息状況



ロードキル調査



自動撮影カメラ

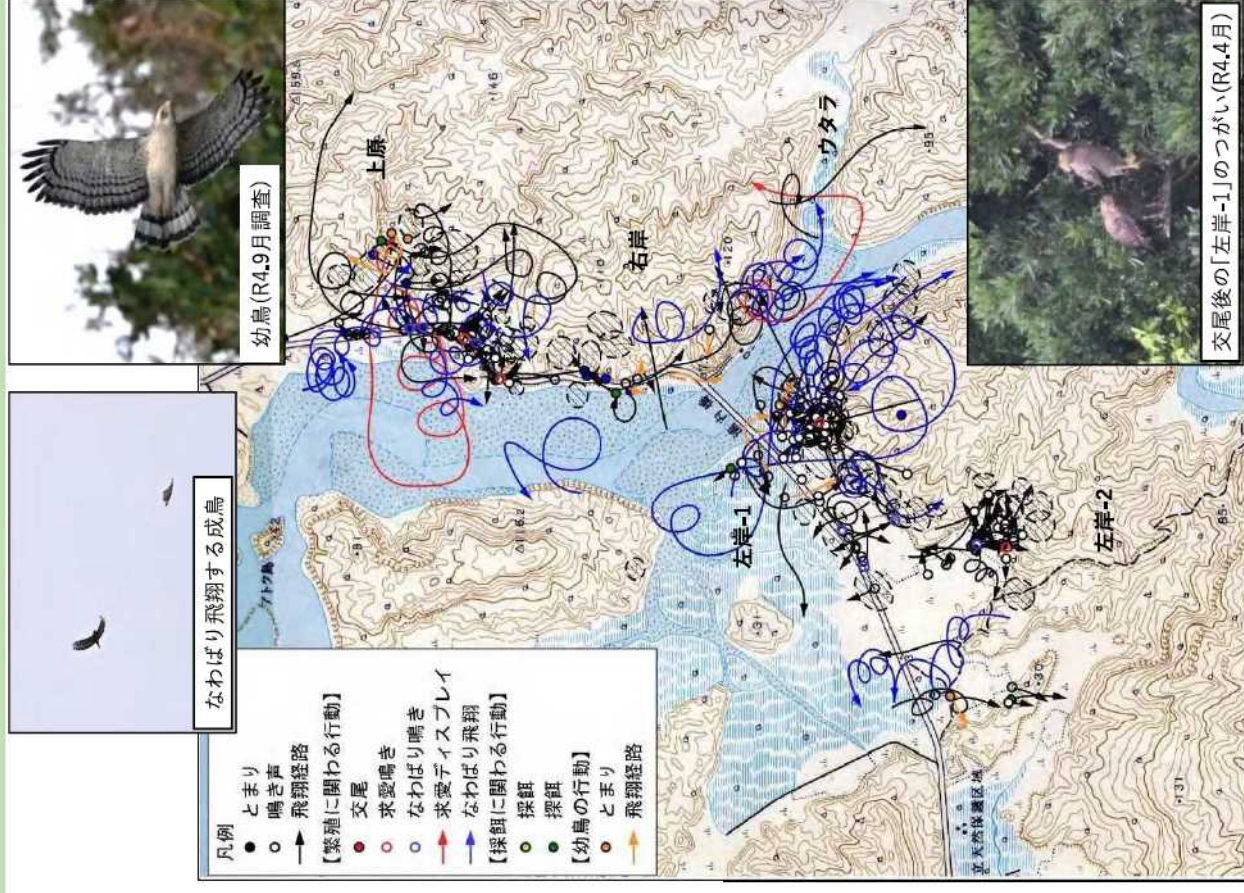


# 環境モニタリング調査結果【陸上動物】

## (1) 鳥類繁殖・生息状況調査

### ①カンムリワシ(R4年結果)

- 産卵～巣内育雛期にあたる令和4年3月～6月調査では浦内橋周辺の4つがいなわばり行動が確認されたほか、「左岸-1のつがい」では交尾行動が確認された。
- 巣外育雛期・家族期にあたる令和4年9月調査では、上原の水田で1個体の幼鳥が確認され、「上原のつがい」の仔である可能性がある。4月調査で交尾行動が確認された「左岸-1」での幼鳥の確認はなかった。
- 令和4年は工事中での調査であったが、工事区域を行動圏に含む「左岸-1のつがい」で交尾が確認されるなど、継続的な繁殖活動が確認されたほか、工事作業や建設作業騒音に対する忌避行動は確認されなかった。





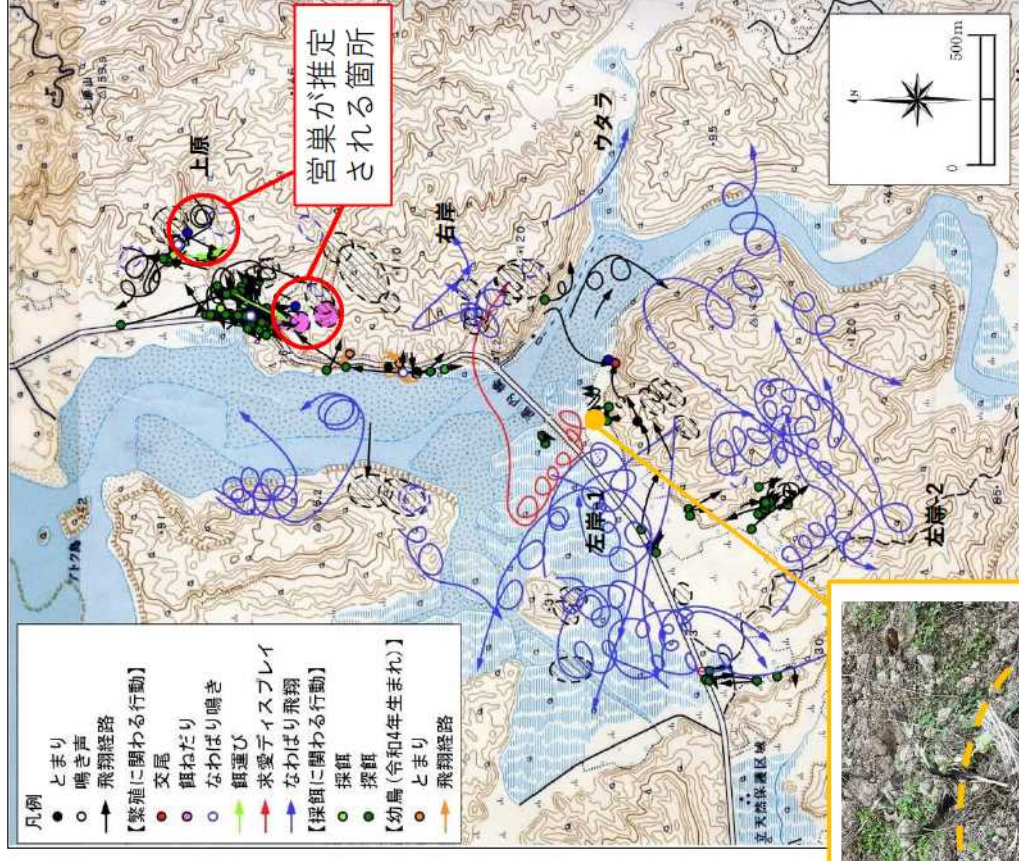
# 環境モニタリング調査結果【陸上動物】

## (1) 鳥類繁殖・生息状況調査

### ①カンムリワシ(R5年結果)

- 令和5年3月～6月調査では令和4年に生まれた幼鳥(若鳥)1個体を確認したほか、3月調査時には、左岸において、交尾も確認された。
- 浦内橋北東側の2箇所では、餌ねだりの声や餌運びが確認され、営巣しているものと推定された。
- 浦内橋近傍ではカンムリワシの確認は少なかった。
- 令和5年5月調査時に、左岸側水田近くで

カンムリワシの死体が確認された。浦内橋周辺をなわばりとしていた個体が不在となっ  
ている可能性があることから、今後の確認状況を注視する必要がある。



カンムリワシ繁殖状況  
(令和5年3月～6月)



カンムリワシの死体  
令和5年5月26日





# 環境モニタリング調査結果【陸上動物】

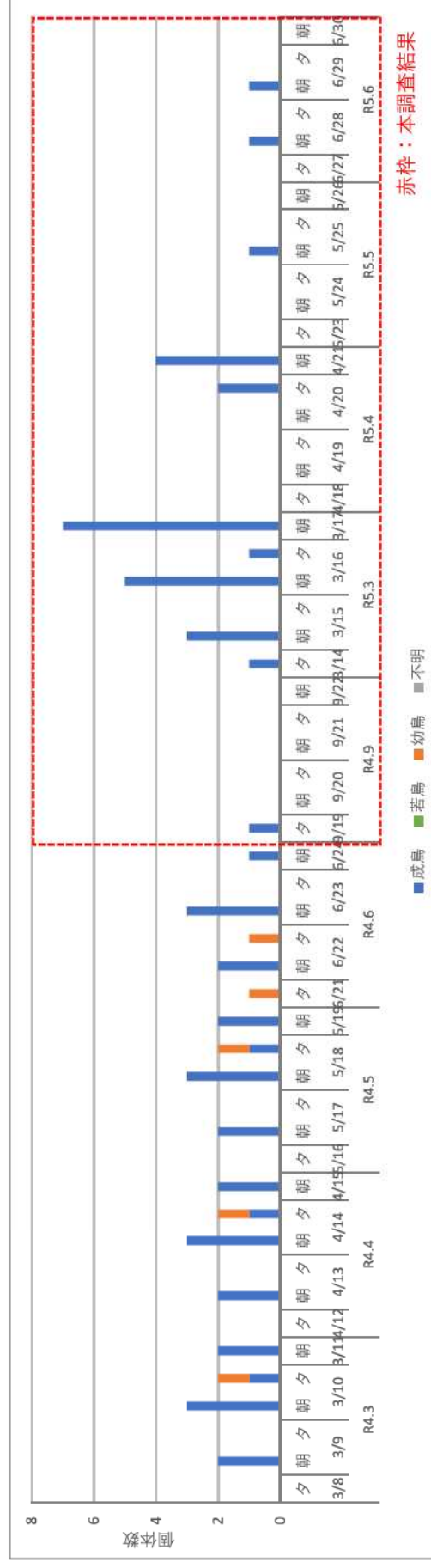
## (1) 鳥類繁殖・生息状況調査

### ③定量調査（カムリワシ）

- 令和4年9月、令和5年3月～6月の調査では、30回のセンサスでカムリワシの確認は延べ27個体であった。
- 令和5年3月調査ではカムリワシの確認数は17個体と多かったが、4月～6月調査では1個体～6個体と少なく、カムリワシの確認のない調査が多かった。
- 経年におけるルートセンサス1回あたりの確認状況は0～7個体(0～1.75個体/km)となっている。



カムリワシセンサスルート(約4km)



カムリワシセンサス結果 (R4.3月～R5.6月)

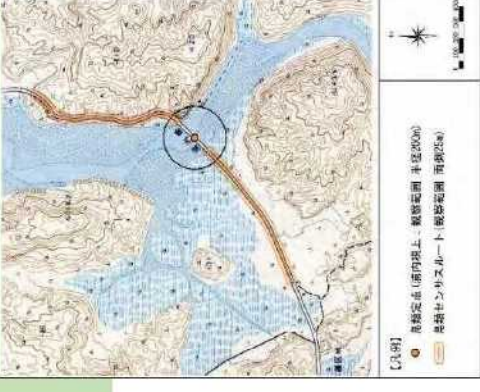


# 環境モニタリング調査結果【陸上動物】

## (1) 鳥類繁殖・生息状況調査

### ③ 定量調査（ルートセンサス・定点調査）

- 令和4年9月、令和5年3月～6月におけるルートセンサスでは、8目22科38種が確認された。経年の確認種数は14～26種、確認個体数は156～316個体であった。
- 干潟を対象とした定点調査では7目15科20種が確認された。経年の確認種数は7～12種、確認個体数は25～52個体であった。



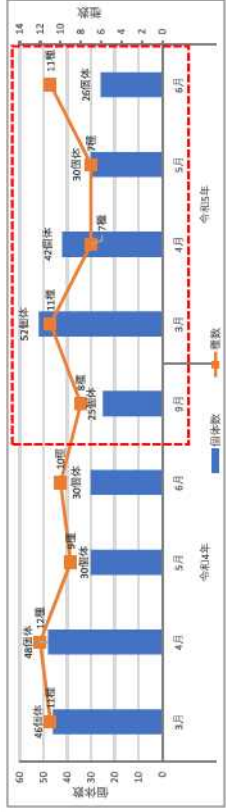
鳥類センサスルート・定点

鳥類ルートセンサス調査結果

No.	目名	科名	種名	令和5年						令和4年								
				9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月			
1	鳥	ハト	カワガラス	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
2	鳥	ハト	リュウキュウツバメ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
3	鳥	ハト	キツツキ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	鳥	ペリカン	オオノボリ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
5	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
6	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
7	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
8	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
9	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
10	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
11	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
12	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
13	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
14	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
15	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
16	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
17	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
18	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
19	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
20	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	7目	15科	20種	156	170	184	198	212	226	240	254	268	282	296	310	324	338	352

鳥類定点調査結果

No.	目名	科名	種名	令和5年						令和4年							
				9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
1	鳥	ハト	カワガラス	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
2	鳥	ハト	リュウキュウツバメ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
3	鳥	ハト	キツツキ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	鳥	ペリカン	オオノボリ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
5	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
6	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
7	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
8	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
9	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
10	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
11	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
12	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
13	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
14	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
15	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
16	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
17	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
18	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
19	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
20	鳥	ウサギ	ウサギ	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	7目	15科	20種	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90



鳥類定点調査結果 (R4.3月～R5.6月) 赤枠：本調査結果



# 環境モニタリング調査結果【陸上動物】

## (2) イリオモテヤマネコの生息状況調査

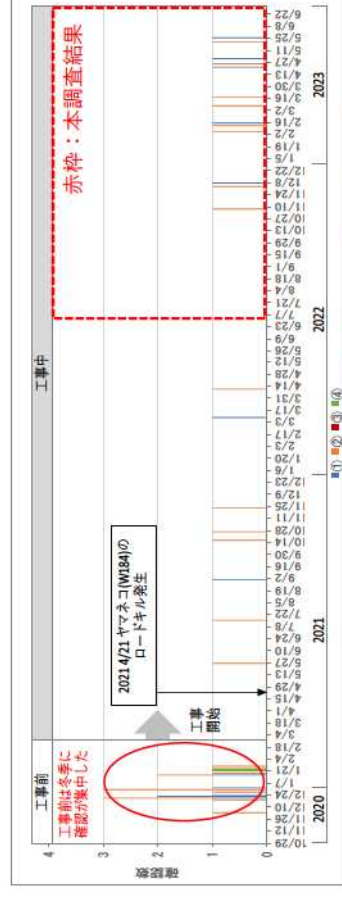
自動撮影の経年調査結果

令和2年10月29日に設置した自動撮影カメラでは、27種の動物種が確認され、イリオモテヤマネコの確認は、工事前の約4か月間で19例、工事中の約2年4か月間で21例であり、工事中のイリオモテヤマネコの確認頻度は、工事前には比べ低下している。なお、右岸側では工事前の1例のみの確認となっている。

令和4年7月～令和5年6月では、13例が確認され、令和4年の秋以降、確認状況は増加傾向にある。

ただし、工事開始後イリオモテヤマネコの確認頻度は低下しており、移動経路を変更し周辺道路を横断している可能性がある。今後も継続的に注意喚起を行うことが重要である。

No.	分類群	目名	科名	和名	学名	重要種	撮影場所			
							左岸	右岸	①	②
1	哺乳類	ネコ	ネコ	イリオモテヤマネコ	<i>Prionailurus bengalensis iriomotensis</i>	●	13	25	1	1
2				イエネコ	<i>Felis catus</i>					
3		ウシ	イノシシ	リュウキュウイノシシ	<i>Sus scrofa riukuumensis</i>	●	90	59	1	2
4		ネズミ	ネズミ	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>			4		
5	鳥類	ハト	ハト	リュウキュウオカキジバト	<i>Streptopelia orientalis streptopelia</i>		1	54	2	
6				キンバト	<i>Butorides striata amurensis</i>					4
7		ペリカン	サギ	ササゴイ	<i>Butorides striata amurensis</i>				1	
8				アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>			4	1	
9				アオサギ	<i>Ardea cinerea jayui</i>		2	1		
10				ダイサギ	<i>Ardea alba alba</i>		4	2	8	
11				コサギ	<i>Egretta garzetta garzetta</i>		5	12	3	
12				クロサギ	<i>Egretta sacra sacra</i>			1		2
13		ツル	ウイナ	オオウイナ	<i>Rallina euntanoides sepiaria</i>					2
14				シロハラウイナ	<i>Actitis hypoleucos</i>		1	116	9	4
15				バン	<i>Ardeotis phoenicurus phoenicurus</i>		2			
16				オオバン	<i>Gallinula chloropus chloropus</i>	●				
17		チドリ	シギ	イソシギ	<i>Fulica atra atra</i>					3
18		タカ	タカ	カンムリワシ	<i>Splomis cheela perpleus</i>					4
19		フクロウ	フクロウ	リュウキュウコノハズク	<i>Otus elegans elegans</i>	●				3
20		スズメ	カラス	オサハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos asi</i>		388	57	5	26
21			ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma dauma</i>					2
22				クロツグミ	<i>Turdus caroli</i>					1
23				シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>				3	32
24				ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>					1
25				ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus aureus</i>					1
26				インビヨドリ	<i>Monticola solitarius philippensis</i>					1
27			セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea cinerea</i>				1	6
合計		10目	12科	27種		4種	11種	20種	8種	12種



イリオモテヤマネコの確認結果(R2.10月～R5.6月)